

八重山諸島、沖縄で一時的に発生をみる迷蝶のひとつだと考えられるウスアオオナガウラナミシジミは、石垣島のオモト林道で、かなり風の強い昼間に風に流されるように飛ぶ個体をネットインした 1997 年 10 月 31 日が初の出会い。標本写真でわかるようにみるも無残な損傷個体で、通常このような個体は直ちに放すのだが、当時はすぐに種名が分からず、調べてみようとの思いで三角紙におさめたもの。結局、普通にはみられない迷蝶だと判明して標本にしたが、リュウキュウムラサキやメスアカムラサキの飼育時に、翅をボロボロになるまで生き抜いてたくさん産卵してくれた母蝶の記録標本を残している以外に、ここまで傷んだ個体を標本化したことはない。



二度目の出会いは、同じく石垣島オモト林道で、シロノセンダングサの咲く草むらに飛ぶシジミチョウが目に入る。新鮮度を確認してとらえるとウスアオオナガウラナミシジミのみだ。このチョウのように色調が淡い個体の標本記録をとるのは難しく、ラベル込の記録がいい色合いが示せているのでそのまま採用している。いずれにしても、オモト林道の全く同じ場所ではないが、

初の出会いとほぼ同じ時期で 6 年後に再び本種に会えるとは想定外の喜びで、結果的に 2003 年は八重山諸島の広い範囲で本種が発生していて、石垣島でその後に複数個体をみた以外に、竹富島、波照間島、与那国島で確認している。実は、2003 年は春日井市在住の蝶友家族を石垣島、与那国島へと案内同行する約束で数日早く八重山を訪れた年で、波照間島は単独での日帰り訪問。所要約 1 時間で高速船が運んでくれるので、石垣島から比較的容易に訪ねられるのがあるがたい。気分がわるくなる人が多いと聞く東シナ海外洋での大きな上下へのゆれは、まもなくいろんな蝶に会えるという期待感いっぱいの筆者にとってはずっと楽しいひと時で、まったく苦にならない。



Oct. 30, 2003
石垣島オモト林道

以下に、2006 年に沖縄本島を訪れたときの蝶紀行から関連記述を抜粋

2006 年 11 月 5 日：本部半島八重岳；木陰が続く林縁には複数頭のナガサキアゲハが蝶道を形成して飛び交い、赤ネットをもって立っているとツマベニチョウだけでなくナガサキアゲハも近づいてきて、花ではないと分かって離れてゆくのを二三度経験する。センダングサの花群に明るいブルーのシジミチョウが飛ぶ。よく見るとまちがいなく迷蝶のウスアオオナガウラナミシジミである。八重山諸島で秋に大量偶発することはよく知られていて、実際、石垣島や竹富島で体験済みだが、沖縄本島にまで北上しているとは想定外。これは貴重な記録だからとネットを振りぬき、中を見るとチョウの姿がない。不覚にも取り逃がしたらしく、せめてカメラ記録をとっておくべきだったと後悔する。

2006 年 11 月 6 日：八重岳；再び訪れた八重岳ではツمامラサキマダラの多い林道入り口から 100m も進まない地点で、昨日取り逃がしたウスアオオナガウラナミシジミが飛び交う様子が目に入る。ネットがまったく届かない遠くの高い位置に、食草となるツル性マメ科植物が薄ムラサキの花をつけ、ときにはその周辺の樹木の葉先で羽を V 字に開いてきれいな薄青の輝きを誇示する日光浴体勢もとるが、いつまでも高嶺の花。15 分ほど粘っても低い位置に降りてくる気配がないので、あきらめて昨日同様にチョウが乱舞する林道へと進む（野外撮影記録は故金子實氏によるビデオ撮影記録から許可を得て転載：撮影日時データはなし）。

